中学２年　国語科　教材別テスト⑫　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　「モアイは語る―地球の未来」（安田喜憲）／光村図書『国語２』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語２』の「モアイは語る―地球の未来」のページを開いたまま**解答します。この文章は、イースター島という**一つの具体例**から出発し、調査・分析によって原因をつきとめ、そこから**地球全体の未来**へと話を広げていく説明文（論説文）です。したがって、個々の事実を覚えることよりも、「**具体例→原因→類推→提言」というつながり**をたどれるかどうかが大切になります。記述問題は、本文の語句をそのまま写すのではなく、自分の言葉で**因果関係**を組み立てて書く形にしてあります。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（語の意味・対義語・類義語・慣用句）	２点×７＝14点
	三	文法（文の成分・文節どうしの関係・文の種類）	16点
思考・判断・表現 50点	四	「モアイは語る―地球の未来」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　冒頭で**具体例（モアイ像の謎）**から入るという、説明文の導入の工夫に気づけるか。

②　**花粉分析**という調査方法と、そこから分かった事実（かつて島にヤシの森が広がっていたこと）を結びつけられるか。

③　森林の消失から**人口の激減**までの**因果の連鎖**を、自分の言葉で順序どおりに説明できるか。

④　イースター島と地球を重ねる**類推（アナロジー）**をとらえ、筆者の**提言**を要約できるか。

⑤　**文の成分・文節どうしの関係・文の種類**（単文・重文・複文）を、文の形から正しく見分けられるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	きょだい	⑪	遺跡
②	なぞ	⑫	運搬
③	ばっさい	⑬	栽培
④	さか（える）	⑭	崩壊
⑤	とぼ（しい）	⑮	荒廃
⑥	こうかい	⑯	足りない
⑦	きちょう	⑰	絶滅
⑧	しつど	⑱	限界
⑨	こりつ	⑲	放送
⑩	おお（う）	⑳	守る

小計　20点

【注意したい字】

③「伐採」は「ばっさい」。「代採」「伏採」と書き誤りやすい。④⑤⑩⑯⑳は**送りがなまで**書けて初めて正答（「栄る」「乏い」「覆」「足ない」「守」はいずれも×）。⑥「航海」の「航」は舟へん。⑦「貴重」の「貴」は「虫」ではなく「貝」を含む。⑧「湿度」の「湿」はさんずい。⑪「遺跡」の「遺」はしんにょう。「遺績」は×。⑫「運搬」の「搬」はてへん＋般。「般」だけにしない。⑬「栽培」の「栽」と「裁」（さばく）を混同しないこと。⑭「崩壊」の「壊」はつちへん。「崩懐」は×。⑮「荒廃」は「荒れ果てること」。「荒敗」は×。⑯「足りない」は「足ない」ではなく「り」から送る。⑲「放送」の「放」は「方」＋「攵」。「送」はしんにょう。⑳「守る」は送りがな「る」まで。「守」だけでは×。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	「枯渇」＝水・資源・資金などが、使い果たされてなくなること。この文章の中心となる語の一つ。イの「草木がかれる」は「枯」の字だけに引かれた誤り。
(2)	**衰退**	繁栄 ⇔ 衰退。「衰亡」「没落」も可とする。「破壊」「貧乏」などは対義語になっていないので×。
(3)	**減少**	増加 ⇔ 減少。人口のグラフを読むときに必ず使う対になる語。
(4)	**無限**	有限 ⇔ 無限。「地球の資源は**有限**である」という、この文章の前提にあたる語。
(5)	**ア**	「原因」＝「要因」。イ「結果」は対義語なので×。説明文では「原因」「要因」「背景」がほぼ同じ役割で使われる。
(6)	**ア**	「拍車をかける」＝物事の進み方をいっそう速める。もともとは馬に乗るときの「拍車」から出た言い方。「人口の増加が森林の破壊に拍車をかけた」のように使う。
(7)	**ア**	「警鐘を鳴らす」＝危険が近いことを知らせ、注意をうながす。この文章の筆者の姿勢そのものを表す慣用句。

小計　14点

三　文の成分と文の種類　（16点）

番号	解答	解説（見分け方）
(1) 1 点	**ウ（修飾語）**	「大きな」は、あとの「時計が」をくわしく説明している。
(2) 1 点	**エ（接続語）**	前の文と後の文をつなぎ、原因・結果の関係を示している。「だから」「しかし」「また」などと同じはたらき。
(3) 1 点	**オ（独立語）**	感動を表し、他の文節と直接結びつかずに独立している。よびかけ・応答・提示も独立語。

(4) 1 点	**ア（主語）**	「何が」にあたる部分。「〜は」の形でも主語になることに注意（「〜が」だけとは限らない）。
(5) 1 点	**イ（述語）**	「どうする・どんなだ・何だ」にあたる部分。文の終わりにあることが多い。

三　文の成分と文の種類（つづき）

番号	解答	解説（見分け方）
(6) 1 点	**ア（主語・述語の関係）**	「花が」＝何が、「さいた」＝どうする。
(7) 1 点	**イ（修飾・被修飾の関係）**	「静かに」が「歩く」のしかたをくわしくしている。
(8) 1 点	**ウ（並立の関係）**	「ノートと」「えんぴつが」が対等に並んでいる。入れかえても意味が変わらないのが見分け方。
(9) 1 点	**エ（補助の関係）**	「いる」が本来の意味をうすめ、「立って」に意味をそえている。「〜て　いる／ある／みる／おく／しまう」の形が目印。
(10) 1 点	**単文**	主語・述語の関係が「弟は―釣った」の**一組だけ**。
(11) 1 点	**重文**	「雨は―やみ」と「風も―おさまった」の**二組が対等に並ぶ**。
(12) 1 点	**複文**	「水が―減った」が「原因」を修飾する**部分**になっており、主語・述語の関係が対等でない。
(13) 2 点	**小川は**	「流れていた」の主語に見えるが、文全体の主語は「小川は」。「この町を」は修飾語。一文節で書けていること（「小川」だけでも可、「小川は、」のように読点を付けても可）。
(14) 2 点	**消えた**	文末の「消えた」が述語。「すっかり消えた」のように二文節で書いたものは－１点。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【文の種類の見分け方】

① 主語・述語の組が**一組**なら**単文**。② **二組以上が対等に並ぶ**なら**重文**（「～し、～した」「～は～、～は～」）。③ 二組以上あるが、一方が他方の**一部（修飾部・主部・述部）になっている**なら**複文**。主語が省略されている文もあるので、「**何が**」**を補って**数えること。

四　「モアイは語る―地球の未来」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3 点	**ア**	「巨大な石像は、だれが、何のために、どうやって作ったのか」という**身近でふしぎな具体例**から入り、読者を引きこんでから、地球全体の問題へと話を広げていく。これが説明文の**導入の工夫**。イ・エのように、モアイ像や筆者自身の話が目的ではない。
(2) 4 点	**ア**	島に生えていたヤシの木を切り、**丸太を「ころ」として転がしながら**運んだという説。この説は「島に大きな木が生えていたはずだ」という前提を必要とするため、後の**花粉分析**の話につながっていく。設問(3)との結びつきを意識させたい。イ～エは、木を使うことは同じでも、本文の説とはちがう運び方なので×。
(3) 4 点	**ア（ヤシ）**	花粉分析＝地層にふくまれる花粉の種類を調べ、昔その土地に生えていた植物を知る方法。調査の結果、島はかつて**ヤシの大木が茂る森林**におおわれていたことが分かった。イ～エは本文にない植物なので×。
(4) 4 点	**ア・イ・ウ**	エ…森林が失われたのは火山の噴火によるものではなく、**人間による長期間の伐採**が原因なので×。オ…外から来た人々が持ち去ったという記述はないので×。 **ア・イ・ウの三つがそろって４点（完答）**。一つでも足りない、または余分なものが入っていれば０点。
(5) 6 点	**（例）表土が流出して農業の生産力が落ち、食料不足から部族間の争いが起こり、人口が激減した。(42字)**	次の四つの要素のうち、**書けているものを１点ずつ＋順序が正しければ２点**で採点する。 **①表土の流出（土地がやせた）　②農業生産の低下　③食料不足　④部族間の争い・人口の激減**。 順序が入れかわっていて因果がつながらないものは、要素点のみ。「森林がなくなった」とくり返しただけのものは０点。40字未満・50字超は－１点。
(6) 3 点	**ア**	「悲劇」とは、島の人々が**自分たちの手で島の自然（資源）を使い尽くし、その結果として暮らしと文明を崩壊させてしまった**ということ。外からの災害ではなく、**自分で自分の土台をこわした**点が「悲劇」である。
(7) 4 点	**ア**	この文章の中心にある**類推（アナロジー）**。イースター島は海に囲まれて外から資源を得られない「閉じた世界」（外からの助けを得られず、自分の中にあるものだけで暮らすしかない世界）であり、地球も宇宙に浮かぶ**一つの大きな「島」**にすぎない、という重ね合わせ。イ・エは共通点としては本質的でないので×。

(8) 6 点	**（例）限られた資源を効率よく長く使い、自然と共存できる社会をつくっていくこと。（36字）**	**「資源には限りがある／効率よく長く使う」**（３点）＋**「自然と共存する・持続できる生き方を選ぶ」**（３点）の二点で採点。「森林を大切にすること。」だけのものは３点。「イースター島はかわいそうだ」のような感想は０点。文末が「～こと。」になっていないものは－１点。30字未満・40字超は－１点。
(9) 4 点	**ア**	〈具体例＝モアイ像の謎〉→〈調査と分析＝花粉分析など〉→〈原因の解明＝過剰な伐採〉→〈地球への類推〉→〈提言〉という流れ。提言が**最後**に置かれていることをつかめているかが分かれ目。イは「調査→原因」の順が逆で、提言と類推も入れかわっている。ウは提言が早すぎ、エは提言から始めているので×。

四　「モアイは語る―地球の未来」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(10) 3 点	**ア**	数値・年代・グラフなどの**データ**は、筆者の主張が個人の感想ではなく**客観的な事実にもとづく**ことを示すための根拠。説明文では「主張」と「根拠」を区別して読むことが重要。
(11) 3 点	**ア**	モアイ像は実際に話すわけではない。島に残された**遺跡そのものが、文明の崩壊という事実を通して未来への警告を伝えている**という意味で「語る」と表現している（擬人的な言い方）。
(12) 6 点	**（例）資源を無駄にしないように、紙や水を大切に使い、ごみを減らす生活を家庭でも続けていきたい。（44字）**	**【ルーブリック】** **・6点**…本文の主張（限りある資源を大切に使う／自然と共存する）と結びついており、**自分が実際にできる具体的な行動**が書かれ、字数も守られている。 **・4点**…具体的な行動は書けているが、本文の主張との結びつきが弱い。 **・2点**…「環境を大切にしたい」など、気持ちだけで具体的な行動がない。 **・0点**…本文の内容と無関係、または未記入。 ※40字未満・50字超は－1点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ）】

1. この文章の話題は**モアイ像そのものではない**。モアイ像は、地球の未来を考えるための**入り口（具体例）**にすぎない。
2. モアイの運搬に使われたのは**ヤシの木の丸太（ころ）**。「島に大きな木があった」という前提が、次の調査につながる。
3. **花粉分析**は「方法」、「かつて島は森林におおわれていた」は「分かった事実」。方法と結果を混同しないこと。
4. 森林が消えた原因は**自然災害ではなく人間の行為**（モアイの運搬・耕地の拡大・人口増加による過剰な伐採）。
5. 森林消失→**表土の流出**→農業生産の低下→食料不足→部族間の争い→人口の激減、という**因果の連鎖**を順序どおりに言えるようにする。順序が入れかわると減点。

6.「イースター島の悲劇」は、**自分たちで自分たちの生活の土台をこわした**という点に意味がある。

7. イースター島と地球の共通点は「**外から資源を補えない、限りある閉じた世界**」であること。この**類推**が文章全体の要。

8. 筆者の結論は「資源を大切に」という標語ではなく、**限られた資源を効率よく長く使い、自然と共存する道を選べ**という**提言**。記述では「〜こと。」の形でまとめる。